

日中友好青年の翼に参加して

もう一度
行きたい国

動いているお兄さんが好きですか、遊んでいるお兄さんが好きですか。一織物工場では、「ああ、野麦峠」を思い出しまった。

小形山 堀内 和子
成都 天縫銅館工場。ガシャーン、ガシャーン、ドッという人の声をかき消す
ドッといふ音、埃と油の匂い
真赤な鉄の塊り。私は今年始
めに見た映画「メトロ・ポリス」
を思い出し、そのBGMがいつ
のまにか耳の中にこだまし
ていた。そして、サントリーナ
柄が頭の中に、ボーと浮か
んでいた。

ここで働く人々の食事はどう
うなのか、目は悪くならない
か、埃の中で肺は悪くならない
か、そんなことばかりが気
になつた。品物の単価の安い
理由はここにあるのでしよう
か？かつての日本もこうだつ
たのでしょうか？今まで考
えようともせず、無視していた
事柄が頭の中に、ボーと浮か
んでいた。

んできた。私は、いつの日も、
政治や経済、対世界、国際問
題云々、そういうものにとん
と興味をもつていなかつた。
でも、このよだな見学地や通
りすがりに見た町並、そして
十三日間いっしょだつた仲間
たちのもつてゐる様々な考
えの中から、私の空虚な脳の中
に、そよそよと風がふきはじ
めていく気がした。「私も少し
考えて見る必要がありそう
な……」と。

そして、まつ先に頭に浮か
んだことは、日中友好、親善
という事、かい間みた中国か
らでは何もわからない。

できることはなにか。そう思
つた時（どのくらい、これか
ら私が興味を示し考えていく
か自信はないが）過去（現在
）未来へと流れる時の中で巡
つて来た、そして来るたくさ
んのでき事を、やがて人の親
となつた時（早くそうなりた
いものではあるけれど）少し
でも正しく多くのことを次の
世代の者たちに伝えていくこ
とが私のできる友好、親善な
のかもしれない。などと、さ
さやかな、かつこいいことを
考えたのである。

「わかとり国体」のバスケット会場だった鳥取県鳥取市から「かいじ国体」同競技会場の都留市へ11月19日代表が訪れ、国体旗の引き継ぎ式が行われました。



鳥取市から 国体旗が届く

「わかとり国体」のバスケット会場だった鳥取県鳥取市から「かいじ国体」同競技会場の都留市へ11月19日代表が訪れ、国体旗の引き継ぎ式が行われました。

いうことである。

◀天安門広場にて



影の力を持つ国

つていないので、日本の機業が吸収されても無理ではなく、そんな姿を目の当たりにしてきました。

交流のメインである西都では、中曾根首相靖国神社参拝の反対デモがあつた為、西川大学訪問が出来ず大変残念でした。

又、どこの都市でも受け入れ

団である事を再確認しました。

大學訪問が出来ず大変残念で

あつたと同時に、政治的影響

を直接受けた事に日本の代表

団である事を再確認しました。

又、仕事として行われ、日本

の様にボランティア活動とし

て参加している人がいなかつ

た事は、大変淋しい思いがし

ました。

街角でアンケートを取り始めると、あつという間に人だ

かりになり、聞いてはいまし

ました。

人が多かつた事にはビックリ

しました。聞いてみると、ラ

ジオを使って独学の人が殆ど

でした。地味な生活をしてい

ました。ながらも、母国語の他に外国

語を学ぼうとする意欲には未

だしました。

こうして旅行を無事終えて

帰国してみると、たつた十三

日間でも中国を訪れた事によ

り、「中国」に関しての色々な

事が、とても身近に感じられ

る様になつた事は、大きな収穫でした。

訪中の旅を終えて、今一番印象に残っている事は、表面に現われていない影の力を持つている国という事です。

一見、のんびり、ゆったり、そして質素に生活している人にとっては彼らは、大きな核の人もいる。しかし、シエルターを持ち、食糧生産の充実などを見ると、とてつもない社会主義国の力を感じました。国営織物工場では、郡内で使っているのと全く同じ機械が、うす暗い中に何十台も並べられ、裸電球一つの下で、一人が何台も織つていのにはビックリしました。

だが本当のところ、今一番単純に思うことは、また中国という国に巡つていきたいと

つていないので、日本の機業が吸収されても無理ではなく、そんな姿を目の当たりにしてきました。

交流のメインである西都では、中曾根首相靖国神社参拝の反対デモがあつた為、西川大学訪問が出来ず大変残念でした。

又、仕事として行われ、日本

の様にボランティア活動とし

て参加している人がいなかつ

た事は、大変淋しい思いがし

ました。

街角でアンケートを取り始めると、あつという間に人だ

かりになり、聞いてはいまし

ました。

人が多かつた事にはビックリ

しました。聞いてみると、ラ

ジオを使って独学の人が殆ど

でした。地味な生活をしてい

ました。ながらも、母国語の他に外国

語を学ぼうとする意欲には未

だしました。

こうして旅行を無事終えて

帰国してみると、たつた十三

日間でも中国を訪れた事によ

り、「中国」に関しての色々な

事が、とても身近に感じられ

る様になつた事は、大きな収穫でした。